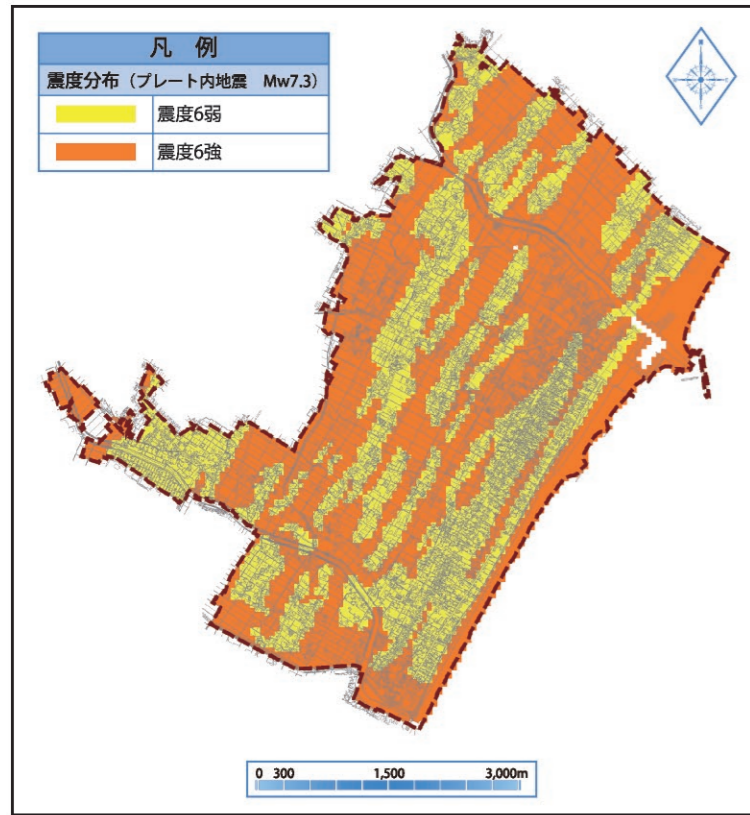


九十九里町直下で発生する地震（マグニチュード7.3）では、ほとんどの地域で、震度6弱から震度6強の揺れと予想されています。

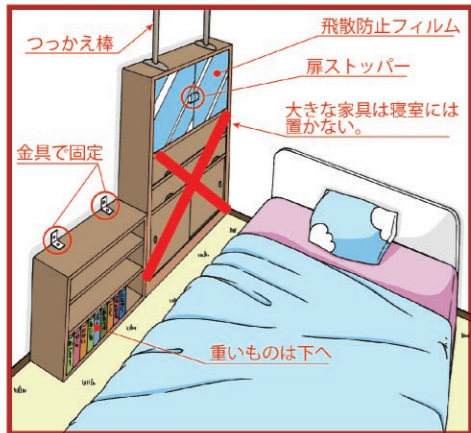


●マグニチュードと震度	
マグニチュードは、 地震の大きさ 震度は、 揺れの強さ	
同じマグニチュードでも、 地盤や震源からの距離により震度が異なる	
●震度と揺れ	
0~4	震度0 人は揺れを感じない 震度1 揺れをわずかに感じる 震度2 屋内にいる大半の人が、揺れを感じる 震度3 屋内にいるほとんどが、揺れを感じる 震度4 ほとんどが驚き、電灯が大きく揺れる
震度5弱	恐怖を覚え なにか物につかまりたい
震度5強	物につかまらなると歩けない
震度6弱	立っていることが困難
震度6強	立っていることができず はわないと動けない
震度7	動くこともできず 飛ばされることもある

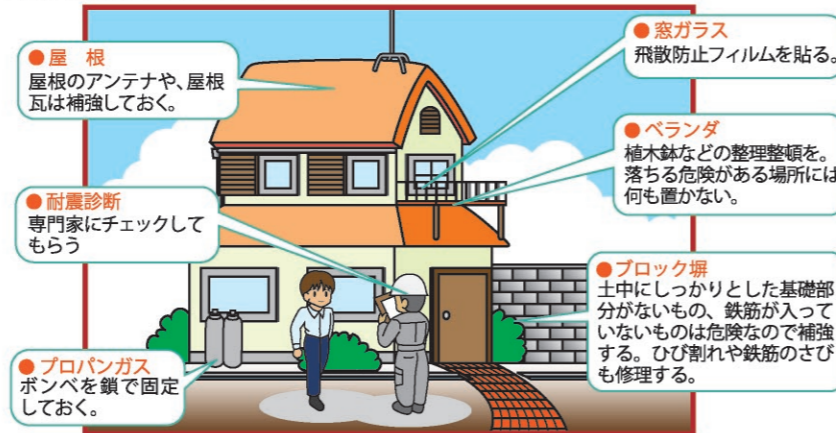
地震に強い家づくり

地震発生時には、ケガをしたり避難できない状況にならないことが大切です。近年発生した地震では、ケガをした人の半数近くが、家具の転倒・落下によるものとされています。家具の転倒やその被害は、事前の対策で軽減することができます。地震に強い家づくりに努めましょう。

●家具の配置のポイント



●我が家とその周辺の点検と対策



●家具を固定して転倒を防ごう

ベルト式器具・チェーン式器具 壁と家具を金具や付属のフックを使ってベルトやチェーンで固定する。	L型金具 金属で壁と家具を直接固定する。壁の棧や鴨居などにしっかりと固定する。	ポール式器具(つかえ棒) 家具と天井の隙間に設置する。隙間が少なく、奥行きのある家具でなければ効果がない。	ストッパー式器具・マット式器具 家具の前面下部に取り付けるストッパーや、家具の底部と床を粘着させるゲル状のものを設置する。	その他 開き扉にはストッパー、扉のない収納器具にはピン落下防止具を設置して、棚などからの中身の飛び出しを防ぎましょう。
---	---	---	---	---

まずは身の安全の確保！あわてずに冷静に行動しよう！

地震発生 安全の確保

緊急地震速報(※)
地震により震度5弱以上の揺れが予想される場合、テレビやラジオ、携帯電話などを通じて緊急地震速報が発表されます。数秒から数十秒の猶予ですが、周りの人にも声をかけながら、まずは身の安全を確保しましょう。

何よりも大切なのは命

- まず第一に身の安全を確保
- 頑丈な机の下などに入る
- 倒れてくる家具や落下物に注意

揺れが収まったら

- 家族等の安否を確認
- ドアを開けて、出口を確保

火の始末・火の元確認

- 調理・暖房器具等の消火
- ガスの元栓を閉める
- 出火した場合、落ちていて消火

閉じ込められたら

- 大声を出して知らせる
- モノを叩いて、音で知らせる

津波に注意

- 津波の危険が予想される場合はすぐに避難!!

3分安全確認・初動対応

避難の準備

- 非常持ち出し袋を手元に用意
- ヘルメットなどをかぶる

情報収集

- テレビやラジオで正確な情報を得る
- 家屋倒壊の危険があれば避難する

あわてずに外へ

- ガラスなど落下物に注意
- 自宅を出るときはブレーカーを切る
- ブロック塀などから離れる

隣近所の安全確認

- 出火はないか
- 閉じ込められた人はいないか

※緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒程度と極めて短く、震源に近いところでは速報が間に合いません。また、ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もあります。

数時間 周辺確認・避難・助け合い

避難する場合

- 自宅を離れる場合はメモを残す
- ブロック塀や危険な建物には近づかない
- 避難場所、家族の集合場所へ

隣近所で助け合い

- 隣近所の安否確認
- 出火していたら、消火器などで初期消火
- 要配慮者などを支援

周囲の状況確認

- 被災状況の確認
- 余震に注意

地域で助け合い

- 火災発生時、119番通報し、協力して消火、危険を感じたら、無理せず避難
- 下敷きになった人を協力して救出
- ケガ人の応急手当
- 要配慮者を優先して救出・救護

3日

助けが来るまであきらめない

- 非常持ち出し品や備蓄品でしのぐ
- 危険な建物には入らない
- 正しい情報入手し、余震に注意
- 帰宅困難の場合、無理して帰らない

避難生活では

- 避難所ではルールを守り、役割を担いながら、避難者同士が互いに協力しながら生活する
- 避難所での生活が長期化する場合、二次持ち出し品を持ち出す
- 助け合いの心で行動する

※自宅の被害が軽微または余震などによる二次災害発生の危険性が低い場合は、避難所に避難する必要はありません。

グラツときたら「シェイクアウト」安全確保行動の1-2-3で身を守る！



まず低く 頭を守り 動かない

(提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議)